

一般質問  
**西川 正克**  
 (日本共産党)

檀原市の一般家庭  
 ゴミ、粗大ゴミ問題

運転免許自主返納に関する質問があったため、要望として、「高齢ドライバーの安全運転については、継続して広報で周知するように」との発言がありました。

ごみ袋製作の経費や取扱業務委託料、保管・配送料の必要経費が6,662万円となり、利益は約1億400万円になるが、ごみの処理対策費やごみ処理経費に充当しており、実質的な利益ではない。

名張市は、指定ごみ袋の有料化で、5年でごみの減量目標を達成し、リバウンド現象も起きていないため、その成果に対し、価格の引き下げにより還元し、更なるごみの減量化行動を期待して、20%引き下げた。本市は15年の有料化以降、30%の減量になっており、3年に1回価格見直すとのことだが。

一般家庭ごみの収集が遅いのでとの声がある。収集体制などはどうなっているか。

8時から収集しているが、午前と午後からの区域があり、収集時間に差が生じる。

遅い時間になるのは仕方がないということか。

遅くなる午後を解消するため、増員等も検討したが、勤務時間に対する収集効率が悪く、多額の経費が必要になるため、現体制が一番よいと考えている。

一般家庭ごみの収集事業の収支状況で年間の利益は。

指定袋の収入は、27年度決算で約1億7,100万円。

な説明会などで、市民の理解を得たい」と答弁されたが、9ヶ月たった現状は。

ごみの収集体系の見直しの一次答申前に、9地区の自治連合会に説明しており、今年度は、2地区で説明会を実施した。審議会では今後の課題やごみ減量・資源化に向けた取り組みや地域活動の活性化に向けた審議を行った。

最終答申の内容は。

多様なニーズに対応した収集体制の構築として、集積所から、戸別収集に移行し、社会的ニーズの変化に柔軟に対応したい。粗大ごみは、高齢者等の排出困難者への支援や負担の軽減、一時多量ごみの回収を目指し、事前申込で、軒先や管理敷地内の道路に面した場所等で収集するリクエ

スト方式の戸別収集の導入を進める。ごみ減量・資源化に向けた取り組みとして、菓子の空き箱等の「雑がみ」を分別回収し循環利用したい。資源の有効利用や焼却量の削減等、循環型社会の形成に多面的な寄与が期待される。地域活動の活性化に向けた取り組みとして、希薄になりつつある地域コミュニティを活気づ

け、市民の環境意識を向上させるなどの効果も期待でき、集団での回収活動の促進に向けて方策を検討する。

雑がみの問題等、具体化されたことだが、不法投棄については、どのような意見が出たのか。

有料化で予想される不法投棄の対策を考えてほしいという要望があった。十分な期間を設けて、対策を講じたい。

具体的な対策は。

不法投棄の多い集積所を廃止することで不法投棄は減少すると思うが、空き地や道路沿い等への不法投棄が考えられる。十分な移行期間を設け、警察署と連携し、巡回、監視等により、地域の実態把握に努め、導入に向け不法投棄対策を講じたい。

主体である自治会の方々に、どれだけ理解してもらえんかが重要である。その中で、「今のままでもいいじゃないか」「自治会のコミュニケーションもある」という意見もあるが、今後、どういう形で説明していくのか。

ごみ処理は、市民の理解や協力が不可欠な事業で、本市のごみ収集体系が大きく変

更されるので、丁寧な説明が必要である。集合住宅や狭隘地域など、地域の実情や安全面を考慮し協議していく必要があると考えている。

わが党は、粗大ごみの有料化に、明確に反対している。有料化していない自治体がある中で、なぜ実施するのか。また有料化になった場合の料金設定は。

ごみの減量・資源化の推進、排出量に応じた費用負担の公平化、市民の意識改革等を図るため、経済的インセンティブを活用した粗大ごみの有料化を導入することが有効な施策と考えている。審議会では円滑な制度導入のため、市民の負担感・受容性への配慮を行う必要があるとされている。粗大ごみが荷台を占める体積に応じて設定すること

で、品目ごとの料金設定が可能になる「体積に応じた4段階方式」が適当と考えている。設定金額は近隣自治体の手数料水準を参考に進め、市民にわかりやすいガイドブック等の作成も含め検討したい。

粗大ごみのリクエスト収集に係る経費は。

あらゆる角度からシミュ